
CROSS † CHANNEL ~ we met him again ~

CROSS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CROSS CHANNEL ~ we met him again ~

【ZPDF】

N6540B

【作者名】

CROSS

【あらすじ】

前作の続編です。第一部です。題名の通りに

プロローグ（前書き）

つまらないなかつたらすみません... ^ 三 (—) 三 ^

プロローグ

一つの世界には存在し…

一つの世界には存在しない…

また…

ある世界が存在し…

ある世界は存在しない…

この世は…無数の選択肢でなりたつている…

一つの事柄に…A・B・C・D…

といつも選択肢があるとしよう…

Aを選んだ世界は…

Bを選んだ世界は…

Cを選んだ世界は…

Dを選んだ世界は…

また、それらを選んだ世界にもまた… A - B - C - D…
という選択肢が待ち受けているだろ？…

この様に世界はなりたつて…いる…

少年は…眠りについていた…

深く…浅い…中途半端な…それでも…彼には夢みたいな…憧れる…
幸せな夢…

彼…黒須太一がたつた一人しか住んでいない…本来在るべきではな
い世界に…彼は住んでいる…

彼の夢は…その世界にかつていた仲間達と…絶対に有り得ない…た
だただ…当たり前な…みんなではしゃぎあつて…そんな…夢だ
つた…

一人の少女が…キャンプを仲間達としていた…

彼女の名前は…佐倉霧…

夕方になり…大切な…何よりも大切な…ラジオ放送が…まつっていた…
週に一回…日曜日にある…今はいない…大切な人の…ラジオ放送…
名前は…黒須太一…

ラジオ放送も終わり…

辺りは夕闇に染まり始めたころ…彼女たちは食事を始めた…

彼女は…その時…喋らなかつた…

彼のことが心配…ただ…そのことしか考えていなかつた…

夜…テントをはつていた…山の山中にある…祠の前で…

『明日もいい日でありますように…』
「来週もいい日であるよつに…」

プロローグ（後書き）

読んで頂きありがとうございます！感想をお待ちしております！>

三（ ）三へ

第一話／再会（前書き）

更新遅れました……すみません……

第1話／再会

チュンチュン……

「ふあ～……くふう……朝……か……朝日が眩しいぜ……」

月曜日……今日からまた一週間が始まる……

俺は、テントから這い出て近くの川へと向かった。この近くの川はまだ水が綺麗な方だ。

「…………！」

「ん……？」

ふと、祠の向こうから何か叫び声らしきものが聞こえた。

「まさか……なあ……」

俺は不思議に思いながら、どこか嬉しさに満ちながらその声の方に向かった。

「…………」

彼女たちは固まっていた。
誰も動けなかつた。
いや……正式に言うと、動きたくない……
誰もこの状況を理解したくないのだろう……

前にも同じ状況があつた。

一年ほど前の夏に……

人類が滅亡していたのだ……

そう……今、このときも……人類が……誰も……いなかつた……
彼女たちしかいなかつた……

「どう……こう……と……？」

桐原先輩がそう言つたのを今、図に……

「なんだよこれ……なんなんだよこれは……」

「霧ちゃん……？」

「美希……」

皆同様に驚き……そしてどうしようもない怒りをあらわにしていた。

「ふむ……これは……」

「…………」

そのなかでも、桜庭先輩と支倉先輩は何か思い当たる節があるよう
な感じをしていた。

「去年の夏もこんな感じだつたわよね…」

「ああ…太一がいたころと同じだ…」

支倉先輩がふと言つたことに桜庭先輩が頷いた。

「あつ…確かにそうね…」

「霧ちん…？」

「うん、確かにそうですね。」

「太一…」

「ペケくん…」

皆同様にあの頃のことを思い出していった…。

ガザツ…!…?

「誰つ！？」

後ろの茂みから草と何かがかすれるような音が聞こえ、支倉先輩の声を合図にみんな後ろをみた。

「確か…こつちのほうだつたよな…」

俺は声のした方へと向かつていた。まさかそんなはずはない…とう思つて向かつていい。だつてさ…あれから一年以上たつんだぜ…?そんな…ことは…

「な×
だよこれは」

「 ×ちゃん...? 」

まさか.....

ガザツ！...!?

しまつた.....!?

「誰つー...? 」

この声は.....

俺は茂みの中からでた...そこには...

懐かしい顔ぶれがいた.....

「曜子ちゃん...」

「太ー...」

「冬子...」
「た...いち...」

「みみ先輩...」
「ペケくん...」

「友貴……」

「太……」

「桜庭……」

「ふつ……久しぶりだな……親友……」

「美希……」

「先輩……」

俺は……最も会いたかった……最愛の彼女を前に……泣いていた……
「霧……元気だつたか……？」

「太……先輩……元気……でしたよ……ーー！」

彼女は……微笑みながら……泣いていた……

今俺には……できると……確信をもち……俺はそんな彼女を……そつと……抱きしめた……

久しぶりの……再会だつた……

第1話／再会（後書き）

読んでくださいこましてあつがといひざれこまかーー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6540b/>

CROSS†CHANNEL ~ we met him again ~

2010年12月23日02時16分発行